

日光菩薩と月光菩薩

薬師如来の多くは伝統的に両脇侍像の日光菩薩と月光菩薩を従えた姿で表現されている。それらはそれぞれ日の光と月の光を表している。佛教の理論では、菩薩とは、他者を涅槃へと導くために、自らの悟りを開くことを遅らせることで、この世にとどまった存在である。菩薩像はしばしば、ここで日光や月光が身に着けている頭飾りのようなジュエリーや装飾をまとっている。これはたいてい何も装飾がついていないシンプルなローブだけを身にまとっている仏陀の銅像とはまったく対照的なものである。日光と月光は、互いに鏡像として表現されており、右側に日光、左側に月光が立ち並ぶ。彼らの光は薬師如来の教えを照らすと言われている。3組の仏像はすべて1603年に完成され、重要文化財に指定されている。